



梅雨から初夏へ、とはいえ毎日、じめじめとしていて、朝から元気になれない人が多いかもしれません。6月14日からサッカーのワールドカップが開催されているのを知っていますか。世界では熱い戦いが繰り広げられています。日本代表も奮闘中！決勝リーグに進出できますように…。

日本代表キャプテンの長谷部選手はドイツのブンデスリーガ「フランクフルト」に所属し、海外で活躍して10年になります。彼は、必ず試合や練習の集合時間の1時間前に集合場所に到着することを決めていて、サッカー以外の約束時間にも絶対に遅刻しないそうです。何をするにも、時間に余裕を持って万全の準備をすることが、相手への敬意の表れだと言っています。本番で納得のいくパフォーマンスをするためには、遅刻しないという、一見簡単そうなことが、大きな意味をもつのです。

みなさんは遅刻していませんか。遅刻することに慣れている人はいませんか。普段の頑張りを無駄にしないためにも、時間に厳しい人になってみませんか。夏季大会が始まっています。集合時間や試合開始時間に遅れることのないように、そして納得のいくプレーができることを願っています。



——***—授業の様子を紹介します—***—***—***

“手足のないチアリーダー”

懸命に産んだ我が子に、手足がなかった…。あるのは短い左足に指が3本のみ。その現実をなかなか受け止められなかった両親。赤ちゃんの名前は、『佐野有美(あみ)さん』。道徳授業を実施する前日に、「手足のないチアリーダー」の本を持っていたら、ある女子生徒が、目を輝かせて、「先生、チアや！！これ道徳でやるの？」と言ってきました。「楽しみやわ～！」と素敵な笑顔。授業をする先生たちも、どんな授業になるのかが楽しみにになりました。

この世の中には、いろいろな人がいて、その人の数だけ違う生き方があります。有美さんは自分の体のことを受け止め、お母さんと共に「できることをどんどん増やしていけるよう、チャレンジし続けていこう。」と誓います。この有美さんの動画にくぎ付けになった1年生たちでした。みなさんは、有美さんの生き方に触れて、どんなことを感じ、何を学びましたか。

《ワークシートより（授業の感想）》

- ・私もチアをやっているけれど、チアは「手足で美しく見せるもの」ではなく、「笑顔と声で楽しくするもの」ということを改めて感じました。手足はないけれど、「笑顔」と「努力」と「声」と「仲間」…いろいろある。だから、周りを元気づけたいと思う有美さんの気持ちに感動した。
- ・手足がなくても自分ができることをしたり、左足を使って練習している姿は、一生懸命に生きようとしている証だと思った。僕はくじけそうになっても、努力を忘れずに頑張っていきたい。
- ・有美さんを変えたのは、有美さん自身の強い心と笑顔、そして、有美さんの周りの方々のおかげでもあったのだと思う。周りの人たちが応援したくなるほど、有美さんの生きようとする姿は、尊いものだと感じた。
- ・チアに出会って、自分の見失っていたものに気づき、笑顔を取り戻すことができてすごく良かったと思う。「自分を好きになる」ということは、とても素敵だ。人間にとって、笑顔と勇氣は大きな力になると思った。



“バスと赤ちゃん”

2年生は、6月2日（土）の休日参観で学年道徳を行いました。

物語の舞台は年末の東京。大勢の人を乗せたバスが都内を走ります。赤ちゃんとお母さんもその乗客のうちの二人。むせ返る熱気に、こらえきれなくなった赤ちゃんが火のついたように泣き出しました。お母さんは気の毒そうに「ここで降ります」と言いますが、その時、運転手さんが「赤ちゃんは泣くのが仕事です！もう少しの間、赤ちゃんとお母さんを一緒に乗せて行ってください！」と車内アナウンスをしました。もし、こんな場面に出合ったらどう感じますか。同じような状況に出くわしたことはありませんか？保護者の方の実体験も聞かせていただき、「心の”バリアフリー”」について考えました。春日丘中学校の生徒のみなさんが、さらに心のあたたかい人になってくれますように。



《ワークシートより（授業の感想）》

- ・社会は人と人との思いやりがないと成り立たないし、優しさや気遣いは人の気持ちをおだやかにするものと思った。私も思いやりの気持ちを大切に、大変なときに助けてもらったのなら素直に感謝し、困っている人がいたら快く助けてあげられるような人になりたい。
- ・人に優しくすることは大切だと思った。たまにきつく言ってしまうことがあったけれど、言われた方は悲しい気持ちになるとは考えずに言っていたので、これからは相手を思いやることを大切にしたい。
- ・このような場面に出合ったら、その人を助けたいと思う。まだ中学生でできることは少ないかもしれないけれど、できるだけ精いっぱいやりたい。



“こんな親だったらどうする？…”

おうちの人から「勉強しなさい！」「スマホばかり触ってたらあかん！」と言われてイラッとしてしまうことはないでしょうか？休日参観では、ビートたけしさんと母親との話をもとに、“親”について考えました。

今回は、ビートたけしさんと母親の間に起こった実際の話をいくつか読んでもらいました。その話の中には、「お母さん、さすがにちょっとひどい！」「たけしさんがかわいそう」と思う場面もあったと思います。しかし、その厳しさの裏には、実は母親からの深い愛情がありました。たけしさんは、母親が誰よりも自分の将来を考えてくれているということに気づきました。さて、今の自分はどうでしょうか。このお話と道徳の授業が、みなさんが自分自身を振り返るきっかけとなったらいいと思います。

《ワークシートより（授業の感想）》

- ・普段は親に対してイラッとすることがたくさんあるけど、そういうのは全部自分のためにしてくれていると考えたら、感謝しないといけないと思った。もう少し親孝行しようと思う。
- ・不満はいっぱいあるけど、その中の見えない優しさがあるから、少しは我慢しようと思った。
- ・ビートたけしさんの親は、本当は子ども思いの優しい親だとわかった。目に見えない優しさを自分の親でも探してみようと思った。
- ・しつこいしケンカもするけど、なんやかんや言って自分をいちばん心配してくれる親。感謝しないといけないと思った。
- ・親は人によって育て方や教え方が違うけど、子どもが大切っていうのはどの親も同じだとわかった。子どもから嫌われても平気で当たり前のことをやってくれたり、普段の生活もすべて親のおかげ。自分もそんな親になりたい。